

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	未来デザインプログラムⅡ		
必修選択	選択	(学則表記)	未来デザインプログラムⅡ		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	スポーツ保育科	1	15
使用教材	①未来デザインプログラムⅡ ワークブック ②公認モチベーション・マネジャー資格 エントリーコース (ハンドブック)		出版社	一般社団法人モチベーション・マネジメント協会	

科目の基礎情報②

授業のねらい	学校や社会でおこる「不都合な現実」の乗り越え方を学ぶ		
到達目標	「公認モチベーション・マネジャー資格 エントリーコース」取得		
評価基準	提出物：70% テスト：30%		
認定条件	・出席が総時間数の2/3以上ある者 ・成績評価が2以上の者		
関連資格	公認モチベーション・マネジャー資格 エントリーコース		
関連科目			
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する		
担当教員	伊東 洋平	実務経験	
実務内容			

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	モチベーションを学ぶとは？	未来デザインプログラムⅡの趣旨理解(モチベーションシオンタイプ)
2	実習に行ってみよう	「実習に行きたくない」時の乗り越え方(選択理論)
3	何度でもチャレンジしてみよう	「実習で何度もやり直しをしなくてはならない」時の乗り越え方(自己効力感①)
4	保育観のズレを乗り越えよう	「保育観の違い」を感じた時の乗り越え方(フィット理論)
5	結果を受け止めよう	「実習で厳しい評価を受けた」時の乗り越え方(チャンスフォーカス)
6	働くということとは？	「働く意味がみえなくなった」時の乗り越え方(欲求階層説)

7	理論を知る意味（復習）	モチベーション理論、未来デザインプログラムⅡの前半で学んだことの振り返り
8	不安を克服するには？	「就職活動に不安で踏み出せない」時の乗り越え方(自己効力感②)
9	周囲との距離を縮めよう	「周囲となじめない」時の乗り越え方(ジョハリの窓①)
10	先輩と良い関係を築くためには？①	「先輩とうまくいかない①」時の乗り越え方(ジョハリの窓②)
11	苦手なことと向き合おう	「苦手なことと向き合えない」時の乗り越え方(目標設定理論)
12	やる気を高めるポイントとは？	「イベントにやる気が出ない」時の乗り越え方(期待理論)
13	未来デザインプログラムⅡの振り返り&モチベーション理論、未来デザインプログラムⅡで学んだことの復習（知識確認）	
14	先輩と良い関係を築くためには？②	「先輩とうまくいかない②」時の乗り越え方(タイムスイッチ)
15	総まとめ	全体のまとめ&ハンドブックについての説明

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	からだの仕組みⅡ		
必修選択	必修	(学則表記)	からだの仕組みⅡ		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	スポーツ保育科	2	30
使用教材	基礎から学ぶスポーツ栄養学			出版社	ベースボール・マガジン社

科目の基礎情報②

授業のねらい	子どもだけでなく大人の指導もでき、自らの日常生活でも活かせるような基礎知識を身に付ける。		
到達目標	栄養摂取と身体の影響を理解する。 一般的な応急処置が出来る・病気や怪我を知る。 運動実施における心の変化を理解する。		
評価基準	テスト/レポート60％　授業態度20％　提出物20％		
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者		
関連資格			
関連科目	からだの仕組みⅠ		
備考	救急処置法：トレーニング指導者テキスト（理論編）P163～206（プリント対応） スポーツ心理学：健康運動実践指導者養成用テキストP117～126（プリント対応） 原則、この科目は対面授業形式にて実施する。		
担当教員	中村　あゆみ	実務経験	○
実務内容	(有)K-TRAINERSにて勤務（5年）、筑陽学園高等学校サッカー部にてトレーナーとして勤務（4年）		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	自己紹介、授業の説明、栄養の重要性
2	水分補給	水の働き、水分補給の仕方
3	朝食/昼食	朝食の重要性、理想的なメニュー選択 昼食の重要性、理想的なメニュー選択
4	夕食	夕食の重要性、理想的なメニュー選択 自分の食事の分析
5	栄養補助食品	サプリメントの摂取
6	減量	体脂肪のKcal、BMI、運動消費カロリーの計算

7	栄養障害①	骨密度低下
8	栄養障害②	鉄欠乏性貧血
9	総まとめ	栄養学のまとめ
10	心肺蘇生法①	一次救命処置の手順、AEDの使用方法・手順・注意点
11	心肺蘇生法②	一次救命処置の手順、AEDの使用方法・手順・注意点
12	熱中症①	熱中症の分類、症状、処置方法
13	熱中症②	熱中症の分類、症状、処置方法
14	RICE処置	RICEのそれぞれの意味、方法、注意点
15	創傷と出血	出血の注意点、止血方法、湿潤療法
16	骨	骨の働き・構造
17	筋肉	主要な筋肉名、筋の種類、筋肉の構造
18	関節	関節の形態と仕組み
19	骨・関節・筋肉の損傷①	下肢の傷害（足部～大腿部）
20	骨・関節・筋肉の損傷②	体幹、上肢の傷害（腰部～手）
21	生活習慣病①	糖尿病、脂質異常症
22	生活習慣病②	高血圧、メタボリックシンドローム
23	内科的な急性障害	過換気症候群、運動誘発性喘息、運動誘発性アナフィラキシー
24	総まとめ	救急処置のまとめ
25	運動実践による心理的効果	運動と心の関係、心理的効果を高める方法
26	運動実践に関わる要因	社会的、心理的、環境的要因
27	運動の採択、継続、停止	TTM
28	多くの参加者を得る為の留意点 指導受講のミスマッチ	ソーシャルマーケティングとセグメント、ミスマッチの種類、解決方法
29	個別指導におけるカウンセリング	動機付け面接の方法
30	総まとめ	スポーツ心理学のまとめ

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	実技	科目名	からだづくり運動Ⅱ		
必修選択	必修	(学則表記)	からだづくり運動Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	スポーツ保育科	2	60
使用教材	からだを操作する能力を育む		出版社	萌文書林	

科目の基礎情報②

授業のねらい	幼児期に運動能力のペースをつくり、子どもの特性に合わせた指導プログラムの立案・指導方法、実技を身につける。		
到達目標	幼児期に適切な運動能力の基盤づくりができる方法を述べることができる。 乳幼児の発達特性に合わせた運動プログラムの立案をすることができる。 子ども達の見本となる運動実技・指導方法を身につけることができる。		
評価基準	演習：40％　提出物：40％　実技：20％		
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者		
関連資格	こども運動指導者検定2級（幼児）　・こども運動指導者検定1級（児童）		
関連科目	発育発達・レクリエーション		
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。		
担当教員	藤木　祐一郎	実務経験	○
実務内容	幼児・児童・生徒への陸上・跳び箱・コーディネーショントレーニング等の運動指導(10年以上)		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	授業の流れ、到達目標について、現代の幼児期の運動のあり方と課題を知る
2	実技編 マット運動	マット運動の基本の動き『前転・開脚前転・後転・開脚後転』を実践できる
3	指導編 マット運動	前転・後転の基本的な指導法と補助法を身に着け指導してみる
4	実技編 跳び箱運動	跳び箱の基本『開脚跳び』の動きを実践できる
5	指導編 跳び箱運動	跳び箱運動の段階指導を学びながら補助法を身に着け指導してみる
6	乳幼児期の運動の必要性	幼児期における運動のあり方と課題を知る

7	こどもの発育・発達と基本運動	発育発達を理解して、個々の発達に合わせ適切にアプローチすることができる
8	移動運動から体を操作する能力を育てる	足の裏・手のひらから体を操作する能力を育てることを知り「寝返り＝転がる」から始まる移動運動の重要性を理解する
9	考案編 動きのテーマを決めて系統的に発展	器具の特性を理解して「転がる」・「走る」をテーマに空間、環境設定してしてみる
10	実践編 動きのテーマを決めて系統的に発展	器具の特性を理解して「転がる」・「走る」をテーマに様々な空間・環境設定して実践できる
11	考案編 両足跳びの動きの発展	基本運動の「両足跳び」を様々な空間で経験できる環境づくりを理解する（系統的）
12	実践編 両足跳びの動きの発展	体を動かしながらことばの機能を育て、基本運動の「両足跳び」を様々な空間で経験できる環境づくりをしたものを実践できる
13	実技完成編 跳び箱運動・マット運動	子ども達の見本となるよう綺麗な動きを習得する（動きの自己分析）
14	実技テスト 跳び箱運動・マット運動	前回自己分析をした箇所を意識して実技テストを実施する
15	前期まとめ	後期に指定された検定認定試験に向けて前期授業の振り返りをし知識を定着させる
16	検定試験対策	回数15から30の期間で「こども運動指導者検定2級」の認定試験が実施されます。（各校指定試験日確認）。認定試験（学科、実技）前期授業内容から出題されます。
17	縄跳び運動	縄跳び運動の跳び方の種類を知り、様々な跳び方を習得する（各自縄跳びを持参）
18	縄跳び～前まわし跳びの運動遊び	指導形態を理解して、ルールのある前回し跳び運動遊びを考案する
19	考案編 テーマを決めて系統的指導	スポーツの基本の動きを理解して様々な環境・空間づくりをして運動能力を高める方法を学ぶ
20	実践編 テーマを決めて系統的指導	考案した系統的指導を共有する
21	実技編 鉄棒	鉄棒運動の基本『足抜きまわり・尻上がり』『前回りおり』『逆上がり』の動きを実践できる
22	指導編 鉄棒指導	鉄棒の段階指導と補助法を理解、実践してみる
23	New Sports①（考案）	「誰でも、いつからでも、楽しく」をテーマにNew Sportsを考案する
24	New Sports②（共有）	考案したNew Sportsを共有する
25	実技編 マット運動・跳び箱運動	自己のレベルを向上するために更に新しい技について学び実践する
26	基本運動の系統的まとめ	様々な環境で系統的に考案。運動能力を高めることについて、まとめをおこなう
27	実技テスト	実技テストを実施する。
28	New Sports まとめ	考案したNew Sports を実践。 様々な角度から子ども達の運動について学ぶ
29	マット運動・跳び箱運動/実技まとめ	子どもたちの見本となるように自己の実技レベルアップを目指す
30	総まとめ	テストの振り返りと総まとめをおこなう

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	実技	科目名	音楽Ⅱ		
必修選択	選択	(学則表記)	音楽Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	スポーツ保育科	2	60
使用教材	近大配本テキスト ピアノ教本 声楽教本 音楽（理論）			出版社	近畿大学九州短期大学通信教育部

科目の基礎情報②

授業のねらい	音楽Ⅰの発展とし、保育現場に必要な音楽能力に関する応用力を習得する。保育実習・教育実習対策も行う。		
到達目標	生活の歌・季節の歌など、子供の歌の弾き歌いができる。 マーチ曲が弾ける。子供の歌を知り、歌える。基礎的な楽典を理解し、読譜ができる。 実習園から渡される曲が弾ける。		
評価基準	テスト/レポート60％ 授業態度20％ 提出物20％		
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者		
関連資格	保育士・幼稚園教諭二種免許状		
関連科目	音楽Ⅰ 音楽Ⅲ		
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。		
担当教員	中野 亮子	実務経験	○
実務内容	小学生～社会人まで声楽・ピアノレッスンを15年、ソプラノ歌手(プロ)として活動15年		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	楽典・季節の歌	ハ長調のコード復習・季節の歌（春の歌）歌唱
2	生活の歌④－1	さよならのうた（ハ長調）
3	生活の歌④－2	さよならのうた（ハ長調）
4	生活の歌④－3まとめ	さよならのうた（ハ長調） テストを実施する
5	楽典・季節の歌	二長調のコード復習・季節の歌（夏の歌）歌唱
6	生活の歌⑤－1	おはようのうた（二長調）

7	生活の歌⑤－2	おはようのうた（ニ長調）
8	生活の歌⑤－3まとめ	おはようのうた（ニ長調） テストを実施する
9	楽典・季節の歌	ヘ長調のコード復習・季節の歌（秋の歌）歌唱
10	生活の歌⑥－1	おかたづけ（ヘ長調）
11	生活の歌⑥－2	おかたづけ（ヘ長調）
12	生活の歌⑥－3まとめ	おかたづけ（ヘ長調） テストを実施する
13	実習対策①	保育園・幼稚園実習に向けた対策を行う
14	実習対策②	保育園・幼稚園実習に向けた対策を行う
15	前期総まとめ	各自の技術の確認と後期の課題提示
16	マーチ①	ハ長調 むすんでひらいて／いとまき／うさぎとかめ
17	楽典・季節の歌	ト長調のコード復習・季節の歌（冬の歌）歌唱
18	マーチ②	ト長調 ちょうちょう／ピーマーチ／きらきらぼし
19	マーチ③	ヘ長調 ジングルベル
20	マーチ④	ニ長調 ミッキーマウスマーチ／メリーさんのひつじ（4つの調）
21	マーチ⑤まとめ	テストを実施する
22	季節の歌④－1	虫の声（ハ長調）
23	季節の歌④－2	虫の声（ハ長調）
24	季節の歌④－3まとめ	虫の声（ハ長調） テストを実施する
25	季節の歌⑤－1	豆まき（ニ長調）
26	季節の歌⑤－2	豆まき（ニ長調）
27	季節の歌⑤－3まとめ	豆まき（ニ長調） テストを実施する
28	実習対策①	保育園・幼稚園実習に向けた対策を行う
29	実習対策②	保育園・幼稚園実習に向けた対策を行う
30	後期総まとめ	各自の技術の確認と次年度の課題提示

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	実習演習Ⅰ		
必修選択	選択	(学則表記)	実習演習Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	スポーツ保育科	4	60
使用教材	実習日誌の書き方 保育指導案大百科事典		出版社	一藝社	

科目の基礎情報②

授業のねらい	実習日誌、保育指導案の書き方を理解し作成する。 保育教材を製作し、それに伴う指導案を作成する。		
到達目標	前期：保育用語を理解し、実習日誌を作成することが出来る。 後期：実習活動内容を基に、指導案を作成する事が出来る。		
評価基準	授業態度：30％ 提出物：70％（指導案・製作物等）		
認定条件	出席が総時間の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者		
関連資格	保育士資格・幼稚園教諭二種免許		
関連科目			
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。		
担当教員	安東 綾子	実務経験	○
実務内容	保育士として従事4年、幼稚園教諭として従事3年、小学校教諭として従事6年		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	授業の目的と意義、授業の進め方、諸注意 等
2	手遊びの教育的意義	手遊びの意義について改めて理解する。 子どもや場面に合わせた手遊びが実践できるようになる。
3	活動の導入・まとめとは	活動の導入・まとめについて理解する。
4	製作物を使った保育①	実習で活用できる保育教材を製作する。
5		
6		

7	指導案の作成	制作したものを指導案に作成する。
8	製作物を使った保育の実践	指導案に沿って発表を行う。
9	実習の振り返り	実習を振り返り、課題を整理する。
10	絵本・紙芝居の読み聞かせ	絵本・紙芝居の種類や絵本・紙芝居の読み聞かせ技法を学ぶ。 グループで絵本の読み聞かせを行う。
11	製作物を使った保育②	実習で活用できる保育教材を製作する。
12		
13		
14	指導案作成	制作したものを指導案に作成する。
15	製作物を使った保育の実践	グループ内で実践する。
16	製作物を使った保育③	実習で活用できる保育教材を製作する。
17		
18		
19	指導案作成	制作したものを指導案に作成する。
20	製作物を使った保育の実践	グループ内で実践する。
21	実習の振り返り	実習を振り返り、課題を整理する。
22	製作物を使った保育④	実習で活用できる保育教材を製作する。
23		
24		
25	指導案作成	制作したものを指導案に作成する。
26	製作物を使った保育の実践	グループ内で実践する。
27	製作物を使った保育⑤	実習で活用できる保育教材を製作する。
28		
29		
30	指導案作成	制作したものを指導案に作成する。

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	キャリア教育Ⅱ		
必修選択	選択	(学則表記)	キャリア教育Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	スポーツ保育科	2	30
使用教材	なし			出版社	

科目の基礎情報②

授業のねらい	本格化する実習と就職に向けて、自分を知り、なりたい自分を明確にする。また、実習並びに就職活動に向けて準備をする。		
到達目標	本格化する実習において、分野・業界を理解する。 自分自身の事を話せる（伝えられる）ようになる。 就職活動に向けて、活用できるツールを知る。		
評価基準	授業態度：20％　／　提出物・小テスト：50％　／　プレゼン：30％		
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者		
関連資格			
関連科目	キャリア教育Ⅰ・Ⅲ、保育実習Ⅰ・Ⅱ、教育実習		
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。		
担当教員	高見　翔吾	実務経験	
実務内容			

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	なりたい自分（目標）を確認する。キャリア教育の実施内容説明し、実習・就職活動に今後自分が何をするのかを知る。就活スケジュールの確認
2	実習調査書・履歴書作成①	いいところ探し、自己PRの伝え方
3	実習調査書・履歴書作成②	実習生調査書と履歴書の作成
4	実習事前指導①	保育備品の使い方、掃除の仕方、言葉遣い、漢字確認・実習目標設定
5	実習事前指導②	オリエンテーション報告シート作成・回収
6	実習事後キャリア指導	目標と実習とのイメージを共有し、なりたい自分を再考する。企業訪問時や実習等におけるお礼状の書き方や書類送付時に必要な送付状の書き方を知る
7	分野/業種理解	分野・業界を理解する。

8	企業分析①・業界研究	業界・企業研究の仕方を知り、企業研究をする。
9	企業分析②・求人票	過年度の到着求人と求人票内容について知る。
10	企業分析③ 発表	業界・企業研究をしたものを発表する。
11	求人票の見方 身だしなみ・スーツ着用	求人票に記載されている項目を知る。 お互いに好感の持てる身だしなみを確認し合う。
12	電話の仕方、訪問の仕方・メール作成 方法・実習先へのお礼状について	対外部とのやり取りの注意点を学ぶ。アルバイト・実習・就職で必要になるため、実際にペアで練習を行い重要なポイントを確認。お礼状・メールも確認して基本的なビジネスメール・お礼状の書き方を知る。
13	ICT教育及びSNSでの効果的発信①	保育・教育現場におけるICT教育についての理解 Facebook・Instagram・Twitterの活用と利用にあたっての留意事項の理解
14	ICT教育及びSNSでの効果的発信②	
15	WEB媒体の登録	就職活動に必要なICT登録をする。
16	SPI・一般常識について	SPIや一般常識テスト対策。園の筆記試験はどのような力が見られているのか
17	小論文	感想文と小論文に違い。書き方についての説明とPOINT
18	給与明細表の見方と税金の仕組み	保険や税金について働いた先を理解する
19	お金について	生涯年収と資産形成について。収入の得方の違い
20	自己分析①	自分史を作成する。
21	自己分析②	自分史を作成する。
22	自己PR	自己PRを作成する。
23	履歴書の書き方①	履歴書の重要性を知る、書き方を学ぶ。
24	履歴書の書き方②	履歴書の書き方を学ぶ。
25	面接の対策① 自己PRの仕方、WEB面接の仕方	面接に向けて自己PRとWEB面接の仕方を知る。
26	面接の対策② 自己PRを練習する	面接に向けて練習をする。
27	キャリアプランシートの作成①	キャリアプランシートの作成方法と作成についての留意事項の説明
28	キャリアプランシートの作成②	キャリアプランシートの作成。
29	就職実習指導	3年次実習園選びのポイント、実習園リストアップ指示
30	まとめ 就職実習に向けて	就職実習（自主実習）事前動機づけ、春休みの課題出し

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	保育原理		
必修選択	選択	(学則表記)	保育原理		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	スポーツ保育科	2	30
使用教材	近大配本テキスト 保育原理			出版社	近畿大学九州短期大学通信教育部

科目の基礎情報②

授業のねらい	現代に至るまでの保育の思想や制度の発達。乳幼児の特性など保育の全体を知る。社会の変化に伴い、保育事業も変化していることなど時事に目に向けて自分なりの保育観をもつことができる。				
到達目標	保育の本質を探究し、保育に対する自分なりの見識をもつことができる。				
評価基準	テスト/レポート60% 授業態度20% 提出物20%				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格	保育士資格・幼稚園教諭二種免許				
関連科目					
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	殷 爽			実務経験	
実務内容					

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション 保育とは	オリエンテーション 保育とは
2	乳幼児の特質と保育の意義	保育とは何か＝保育の理念 養護と教育
3	乳幼児期の発達の特質（1）	乳幼児期の発達の特質（1）
4	乳幼児期の発達の特質（2）	乳幼児期の発達の特質（2）
5	保育思想と児童観の変遷	保育思想と児童観の変遷
6	現代の児童観と出生率・児童虐待	現代の児童観と出生率・児童虐待

7	児童虐待に関するビデオ	児童虐待に関するビデオを視聴する
8	まとめ	まとめ
9	近代保育施設・制度の創設	近代保育施設・制度の創設
10	各国の保育	各国の保育を知る
11	各国の保育	各国の保育を知る＝調べ学習発表
12	わが国における幼稚園・保育所の成立と変遷①	明治から昭和の戦前までの日本の幼児教育について知る
13	わが国における幼稚園・保育所の成立と変遷②	明治から昭和の戦前までの日本の幼児教育について知る
14	保育の内容の変遷	保育の内容の変遷（主に明治、大正、昭和と時代を経ての変遷を学ぶ）
15	今日の保育内容	今日の保育内容（現在行われている保育内容についてを学ぶ）
16	保育の方法形態	時代の流れの中でどのような保育形態が現在行われているかを知る
17	保育方法の基本原理	保育所保育指針、幼稚園教育要領に記載されている保育の基本原理を確認する
18	遊びの意義	子どもの遊びの発達について確認し、遊びを通じての子どもの成長を学ぶ
19	「遊び」に関するビデオ	「遊び」に関するビデオを視聴する
20	まとめ	まとめ
21	保育計画と指導計画①	保育計画とは、指導計画とは何かを知る
22	保育計画と指導計画②	保育計画と指導計画の実際を知る
23	3歳未満児の保育計画と実際	3歳未満児の保育計画と実際
24	3歳以上児の保育計画と実際	3歳以上児の保育計画と実際
25	個々の幼児への理解と援助	個々の幼児への理解と援助（事例検討）
26	保育の評価	なぜ保育の評価が必要なのかを学ぶ
27	保育所での健康・安全上の留意点	安全教育の考え方を学ぶ
28	幼稚園と保育所の今後	保育園、幼稚園の今後の役割を学ぶ
29	保育の多様化	子育て不安や地域の子育て支援について学ぶ
30	後期まとめ	1年間の総まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	子ども家庭福祉		
必修選択	選択	(学則表記)	子ども家庭福祉		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	スポーツ保育科	2	30
使用教材	【近大配本テキスト】児童家庭福祉 第3版			出版社	ミネルヴァ書房

科目の基礎情報②

授業のねらい	子どもの福祉を図る制度の意義、体系を理解する。 現代社会や環境の変化が子どもに与える影響を学び、今後の課題を考察する。				
到達目標	保育士に求められる人間性と資質を理解し、相談援助の方法を身につける。				
評価基準	テスト/レポート：60% 授業態度：20% 提出物：20%				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格	保育士・幼稚園教諭二種免許状				
関連科目					
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	橋本 理絵			実務経験	○
実務内容	介護職員として従事1年、生活相談員として従事5年、ソーシャルワーカーとして従事8年				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション 児童福祉とは何か	オリエンテーション 児童福祉とは何か
2	児童福祉と少子高齢化社会	児童福祉と少子高齢化社会
3	児童の生活環境の変化①	児童の生活環境の変化①
4	児童の生活環境の変化② ※ケースディスカッション	児童の生活環境の変化②
5	児童の生活環境の変化② ※ケースディスカッション	児童の生活環境の変化②
6	児童福祉の歴史	児童福祉の歴史

7	児童福祉の歴史	児童福祉の歴史
8	児童福祉制度の体系と運用過程① 法体系	児童福祉制度の体系と運用過程①法体系
9	児童福祉制度の体系と運用過程② 児童福祉法	児童福祉制度の体系と運用過程②児童福祉法
10	児童福祉制度の体系と運用過程③ 児童福祉の機関	児童福祉制度の体系と運用過程③児童福祉の機関
11	要援護児童の現状と児童福祉施設① 要養護児童	要援護児童の現状と児童福祉施設①要養護児童
12	要援護児童の現状と児童福祉施設① 要養護児童	要援護児童の現状と児童福祉施設①要養護児童
13	要援護児童の現状と児童福祉施設② 被虐待児	要援護児童の現状と児童福祉施設②被虐待児
14	要援護児童の現状と児童福祉施設③ ひとり親家庭	要援護児童の現状と児童福祉施設③ひとり親家庭
15	要援護児童の現状と児童福祉施設④ 非行児童	要援護児童の現状と児童福祉施設④非行児童
16	要援護児童の現状と児童福祉施設⑤ 障害児	要援護児童の現状と児童福祉施設⑤障害児
17	要援護児童の現状と児童福祉施設⑥ 保育	要援護児童の現状と児童福祉施設⑥保育
18	要援護児童の現状と児童福祉施設⑦ 家庭支援・その他	要援護児童の現状と児童福祉施設⑦家庭支援・その他
19	ケースディスカッション①	ケースディスカッション①
20	ケースディスカッション②	ケースディスカッション②
21	子どもの権利に関する条約・規定	子どもの権利に関する条約・規定
22	児童福祉サービスの今後の課題①	児童福祉サービスの今後の課題①
23	児童福祉サービスの今後の課題② (エンゼルプラン)	児童福祉サービスの今後の課題②(エンゼルプラン)
24	児童福祉の推進に 問われる課題	児童福祉の推進に問われる課題
25	児童福祉専門職とその現状	児童福祉専門職とその現状
26	児童福祉専門職の専門性	児童福祉専門職の専門性
27	児童福祉専門職の専門性	児童福祉専門職の専門性
28	ケースディスカッション③	ケースディスカッション③
29	ケースディスカッション④	ケースディスカッション④
30	年間まとめ	年間まとめ

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	幼児への特別な支援		
必修選択	選択	(学則表記)	幼児への特別な支援		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	スポーツ保育科	2	30
使用教材	【近大配本テキスト】よくわかる障害児保育第2版		出版社	ミネルヴァ書房	

科目の基礎情報②

授業のねらい	特別支援教育に関する理念、制度の仕組みを理解する。		
到達目標	特別支援を必要とする幼児への支援の方法について例示することができる。		
評価基準	テスト/レポート：60% 授業態度：20%（出席含） 提出物：20%		
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者		
関連資格	保育士・幼稚園教諭二種免許状		
関連科目	社会福祉・児童家庭福祉・相談援助		
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。		
担当教員	大竹 倫代	実務経験	○
実務内容	保育士として従事7年、幼稚園教諭として従事8年		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション Ⅰ．障害児保育とは何か	保育現場にいる障害のある子ども、障害のとりえ方と変化
2	Ⅰ．障害児保育とは何か	乳幼児期における障害特性
3		障がいのとりえ方と理論の変化
4		幼児期の障害のある子どもの抱える「困り感」
5	Ⅱ．障害児保育の仕組み	障害児保育のあゆみ 障害児保育の制度と形態
6		障害児保育に関する専門性
7		障害児とライフコース 乳幼児健康診査と早期発見 6 就学時の健康診断と就学相談

8	Ⅲ. 知的障害の特徴と保育での支援	知的障害のとらえ方 2 知的障害の認知の特徴
9		知的障害児の特徴を踏まえた支援 4 ダウン症児の特徴と支援のポイント
10	Ⅲ. 知的障害の特徴と保育での支援	基本的生活習慣の確立 保育現場における支援 7 個別配慮や小集団を利用した発達支援
11	Ⅳ. 自閉症スペクトラム障害の特徴と保育での支援	1 自閉症スペクトラム障害のとらえ方 2 自閉症スペクトラム障害児の認知の特徴
12		3 自閉症スペクトラム障害児の社会性や行動の特徴 4 自閉症スペクトラム障害児と二次障害
13		自閉症スペクトラム障害児の特徴を踏まえた支援のポイント 6 保育現場における支援
14		7 個別配慮や小集団を利用した保育
15	前期まとめ	実習報告と気づき
16	Ⅴ 注意欠如・多動性障害の特徴と保育での支援	1 注意欠如・多動性障害のとらえ方 2 注意欠如・多動性障害児の認知の特徴
17		3 注意欠如・多動性障害児の行動の特徴 4 注意欠如・多動性障害児の特徴を踏まえた支援のポイント
18		5 保育現場における支援 6 ADHDと二次障害
19	Ⅵ 学習障害の特徴と保育での支援	1 学習障害のとらえ方 2 学習障害児の認知の特徴
20		3 学習障害児と不器用 4 学習障害児の特徴を踏まえた支援
21		5 保育現場における支援 6 保育者の理解と保育の中での個別配慮
22	Ⅷ インクルーシブ保育とは	1 発達保障のインクルーシブ保育 2 障害児の在籍するクラスの保育計画
23		3 問題行動のとらえ方 4 保育者の気づきと保育 5 クラスメートへの対応
24	Ⅺ 障害児のアセスメント	1 保育におけるアセスメント 2 保護者からの情報による子ども理解
25		3 行動観察における子ども理解
26		4 心理監査による子ども理解
27		9 総合的な子ども理解と支援への活用
28	後期まとめ	後期まとめ
29	年間まとめ①	年間まとめ①
30	年間まとめ②	年間まとめ②

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	子どもの食と栄養		
必修選択	選択	(学則表記)	子どもの食と栄養		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	スポーツ保育科	2	30
使用教材	新 保育ライブラリ 子どもの食と栄養			出版社	北大路書房

科目の基礎情報②

授業のねらい	保育者として正しい食の知識を持つことで小児の成長発達に専門家として対応できる力をつける		
到達目標	小児の発達・発育の特性・栄養に関する基本的な知識を踏まえ、 小児期における心身の発達段階に応じた栄養法、食生活、集団給食、食育の重要性を理解する		
評価基準	テスト/レポート60％ 授業態度20％ 提出物20％		
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者		
関連資格	保育士資格・幼稚園教諭二種免許		
関連科目			
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。		
担当教員	小金丸 桂子	実務経験	○
実務内容	公的機関にて母子栄養相談3年		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	子どもの健康と食生活の意義	子どもの健康と食生活の意義
2	栄養に関する基本的知識 ①	栄養に関する基本的知識 ①
3	栄養に関する基本的知識 ②	栄養に関する基本的知識 ②
4	栄養に関する基本的知識 ③	栄養に関する基本的知識 ③
5	栄養に関する基本的知識 ④	栄養に関する基本的知識 ④
6	栄養に関する基本的知識 ⑤	栄養に関する基本的知識 ⑤

7	食事摂取基準の意義	食事摂取基準の意義
8	消化・吸収	消化・吸収
9	子どもの発育・発達と食生活	子どもの発育・発達と食生活
10	発育・発達の評価と食生活	発育・発達の評価と食生活
11	食生活と子どもの健康	食生活と子どもの健康
12	妊娠のメカニズムと妊婦	妊娠のメカニズムと妊婦
13	妊娠のメカニズムと食生活①	妊娠のメカニズムと食生活①
14	妊娠のメカニズムと食生活②	妊娠のメカニズムと食生活②
15	母乳分泌と妊娠期・授乳期の食生活	母乳分泌と妊娠期・授乳期の食生活
16	乳児期の心身の特徴と食生活	乳児期の心身の特徴と食生活
17	離乳の意義とその実践	離乳の意義とその実践
18	幼児期の心身の特徴と食生活の関係 ①	幼児期の心身の特徴と食生活の関係 ①
19	幼児期の心身の特徴と食生活の関係 ②	幼児期の心身の特徴と食生活の関係 ②
20	幼児期の栄養上の問題	幼児期の栄養上の問題
21	学齢期・思春期の食生活 ①	学齢期・思春期の食生活 ①
22	学齢期・思春期の食生活 ②	学齢期・思春期の食生活 ②
23	特別な配慮を要する子どもの食と栄養 ①	特別な配慮を要する子どもの食と栄養 ①
24	特別な配慮を要する子どもの食と栄養 ②	特別な配慮を要する子どもの食と栄養 ②
25	障害がある子どもの食生活①	障害がある子どもの食生活①
26	障害がある子どもの食生活②	障害がある子どもの食生活②
27	児童福祉施設における食生活	児童福祉施設における食生活
28	食育の基本と内容・方法 ①	食育の基本と内容・方法 ①
29	食育の基本と内容・方法 ②	食育の基本と内容・方法 ②
30	年間まとめ	年間まとめ

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	子ども家庭支援の心理学		
必修選択	選択	(学則表記)	子ども家庭支援の心理学		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	スポーツ保育科	4	60
使用教材	子ども家庭支援の心理学			出版社	中央法規出版

科目の基礎情報②

授業のねらい	生涯発達と初期経験の重要性を学ぶ 家族、家庭の理解や子育て家庭に関する現状と課題を学ぶ				
到達目標	生涯発達に関する心理学の知識を習得し、初期経験の重要性、各時期の移行、発達過程についてを他者に説明することができる。家族家庭の意義や機能を理解し子どもとその家族を包括的に捉える視点を持つ子育て家庭の現状と課題を理解するとともに、子どもの精神保健とその課題について述べるができる。				
評価基準	テキスト1講から6講、7講から9講、10講から13講、14講から15講と4クルーに分けそれぞれの分野の理解度をレポート課題やテスト、グループワーク等で総合的な評価を行う				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格	保育士・幼稚園教諭二種免許状				
関連科目	子ども家庭支援論、保育の心理学、幼児の特別な支援、子育て支援				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	大竹 倫代			実務経験	○
実務内容	保育士として従事7年、幼稚園教諭として従事8年				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	「子ども家庭支援の心理学」という教科について
2	第1講 乳児期の発達について	生まれてから2歳頃までの初期発達の特徴と保育者の関わりについて理解する
3		新生児期、乳児期における運動発達や社会性・言葉の発達について学びを深める
4	第2講 幼児期の発達について	幼児期の基本的発達の特徴（認知、言語、社会性、自我）を理解する
5		保育場面での事例等を通じ遊びの発達を学び、発達の道筋をを理解し保育者の役割について考える

6	第3講	小学校入学以降の学童期の発達の特徴（認知、社会性、自己概念）を理解する
7	学童期の発達について	乳幼児期から学童期への移行の中で起こる発達と教育の諸問題について考える
8	第4講	青年期の身体的発達と認知発達、対人関係の変化、青年期の問題行動について学ぶ
9	青年期の発達について	問題行動のリスクの高い子どもたちの介入研究を行う
10	第5講 成人期・中年期の発達について	成人期の社会的責任や役割等を知り、配偶者、子ども、親等との関係性の変化を理解する
11	第6講 高齢期の発達について	我が国の超高齢化社会を理解し、高齢者を取り巻く社会状況や高齢者福祉や支援等を学ぶ
12	第1講から第6講のまとめ	主に人の発達について理解したことをまとめる
13	第7講 家族・家庭の意義と機能	家族形態の歴史的変化について知り、現代の家庭の機能について理解をする
14	第8講	家族のシステム論を学び、様々な家族関係を理解しジェノグラムの書き方を学ぶ
15	家族関係、親子関係の理解	親子関係のロールプレイを行うことで家族間でのコミュニケーションの大切さを学ぶ
16	第9講	保育園、幼稚園、子ども園などの子育て支援の法規を学び、保護者の気持ちを理解する
17	子育ての経験と親としての育ち	赤ちゃん誕生や、こんにちは赤ちゃん対策などの映像を通じて親の意識や心理を理解する
18	第10講	日本の少子化問題を理解し、核家族化を支える制度を理解する
19	子育てを取り巻く社会的状況	実際に行われている自治体の子育て支援の実践を調べ、日本での子育て支援の状況を理解する
20	第11講	ライフコースの概念を学び、その歴史的変換を通じて日本のライフコースの様相を知る
21	ライフコースと仕事、子育て	ライフコースの視点を生かした親理解や親支援を事例を通じて考察する
22	第12講	多様な家族関係に焦点をあて、社会的養護や福祉領域との接点を知る
23	多様な家庭とその理解	子どもを取り巻くさまざまな課題を知り、それらの具体的な支援の現状を学ぶ
24	第13講	養育者のメンタルヘルスや子どもの虐待、障がいに対するマルトリートメントと家族機能不全を知る
25	特別な配慮を要する家庭	逆境的小児体験の影響、トラウマインフォームド・ケアを学び、保育者としてのスキルを得る
26	第14講	年齢に応じた保育環境の大切さを知る
27	子どもの生活、生育環境とその影響	特殊な環境で育った子どもや、その家族のサポート方法を考察する

28	第15講 子どもの心の健康に関わる問題	子どもの心の健康について理解する
29		発達要がいについての理解を深め、他の機関との連携などを考え総合的な子どもの育ちを知る
30	教科総まとめ	1年間の総まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	子どもの保健		
必修選択	選択	(学則表記)	子どもの保健		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	スポーツ保育科	4	60
使用教材	新版 よくわかる子どもの保健			出版社	ミネルヴァ書房

科目の基礎情報②

授業のねらい	子どもの心身の健康について自ら考えることができる。		
到達目標	子どもの保健の意義が分かり、子どもを取り巻く最近の問題点及び今後の課題について説明できる。 子どもの心身の正常な発育及び発達段階各期の特徴を述べることができる。 子どもの保健行政について述べることができる。 子どもにおこりやすい疾病を知り、その予防と対策を述べることができる。		
評価基準	テスト/レポート：60％ 授業態度：20％ 提出物：20％		
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者		
関連資格	保育士・幼稚園教諭二種免許状		
関連科目	発達心理学・社会的養護・乳児保育・障害児保育・健康Ⅱ		
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。		
担当教員	新里 なつみ	実務経験	○
実務内容	こども等への健康教育・保健指導に8年従事		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	Ⅰ 子どもの心身の健康と保健の意義	Ⅰ－1 健康の概念と健康指標 Ⅰ－3 小児保健を日々の子育てに役立てるために（P175 保育所保育指針「第3章・健康及び安全」参照）
2		Ⅰ－2 子どもの健康を脅かすもの Ⅰ－6 育児環境と精神保健
3		Ⅰ－4 我が国の小児保健水準 Ⅰ－5 母子保健 Ⅰ－7 母親のメンタルヘルス
4		Ⅰ－8 虐待 Ⅰ－9 子どものトラウマとその対応
5		Ⅰ－10 地域精神保健活動 Ⅰ－11 保健における養護と教育の一体性
6	Ⅱ 身体発育と保健	Ⅱ－1 発育には原則がある Ⅱ－2 乳幼児の計測の仕方 Ⅱ－3 身体発育値を評価する

7	II 身体発育と保健	II－4 体重 II－5 身長 II－6 頭囲 II－7 身長, 体重のバランス
8		II－8 肥満とやせ II－9 身体発育に影響する要因
9	III 運動機能の発達と保健	III－1 から 4 新生児・乳児・幼児・学童期以降 各期の運動機能の発達
10	IV 生理機能の発達と保健	IV－1 自律神経 IV－2 体温 IV－3 水分代謝と発熱
11		IV－4 循環 IV－5 呼吸・心拍・血圧 IV－6 消化吸収 IV－7 排泄
12		IV－8 睡眠 IV－9 感覚器官 IV－10 免疫
13	V 精神機能の発達と保健	V－1 子どもの心の育ち V－2 言語の発達 V－3 社会性の発達
14		V－4 情緒の発達 V－5 発達に影響する要因
15	VI 心身の健康状態とその把握	VI－1 健康状態の観察のポイント VI－2 頭・頸部
16		VI－3 胸・腹部 VI－4 四肢・皮膚
17		VI－5 子どもの心身の健康 VI－6 心身症 VI－7 生活習慣や行動上の問題
18		VI－8 発達を評価する VI－9 乳幼児健康診査 VI－10 保護者との情報共有
19		VII－1 子どもの疾病の特徴 VII－2 重要な感染症 P116
20	VII 子どもの疾病の予防及び適切な対応	VII－2 重要な感染症 P116~119
21		
22		VII－14 予防接種（P177 巻末資料② 予防接種のスケジュールも参照）
23		VII－3 呼吸器疾患 VII－4 消化器疾患 VII－5 循環器疾患
24		
25		VII－6 泌尿, 生殖器疾患 VII－7 中枢神経系疾患
26		VII－8 内分泌, 代謝疾患 VII－9 血液・腫瘍性疾患
27		VII－10 アレルギー疾患 VII－11 整形外科疾患
28		VII－12 その他の疾患 VII－13 新生児マス・スクリーニング検査
29		VII－15 疾病異常と支援体制 VII－16 他職種間の連携・協働
30	年間総復習	年間総復習

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	教育相談		
必修選択	選択	(学則表記)	教育相談		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	スポーツ保育科	2	30
使用教材	近大テキスト『子育て支援カウンセリング』 教育相談		出版社	図書文化	

科目の基礎情報②

授業のねらい	教育現場における教育相談の基礎知識と基本技術を身につける。問題解決のための園児・保護者への支援の在り方を学ぶ。		
到達目標	子どもの心の成長やつまづき、保護者への支援に関する理解をカウンセリング・教育相談の視点から深めることを通じて、子どもや家庭への支援の在り方を理解できる。		
評価基準	テスト/レポート60％ 授業態度20％ 提出物20％		
認定条件	・ 出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・ 成績評価が2以上の者		
関連資格	保育士・幼稚園教諭二種免許状		
関連科目	教育原理・教育課程総論・幼児と人間関係・教育心理学・発達心理学 等		
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。		
担当教員	大竹 倫代	実務経験	○
実務内容	保育士として従事7年、幼稚園教諭として従事8年		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	ガイダンス、本講義の内容。
2	よりよい子育て支援のために①	子育て支援の考え方①
3	よりよい子育て支援のために②	子育て支援の考え方②
4	子育て支援に生かす カウンセリングの理論①	来談者中心療法
5	子育て支援に生かす カウンセリングの理論②	精神分析
6	子育て支援に生かす カウンセリングの理論③	アドラー心理学

7	子育て支援に生かす カウンセリングの理論④	ユング心理学
8	子育て支援に生かす カウンセリングの理論⑤	行動療法、論理療法など
9	カウンセリングの技法①	カウンセリングスキルの基礎
10	カウンセリングの技法②	カウンセリングスキル、言語、姿勢、応答。
11	カウンセリングの技法③	傾聴、質問の方法
12	日常的な実践のポイント①	事例研究：保護者の育児支援など。
13	日常的な実践のポイント②	事例研究：登園しぶりの子どもへの支援、虐待が疑われる家庭など。
14	ここまでのまとめ①	近大レポート課題の対策/近大試験問題についての対策
15	ここまでのまとめ②	レポート/試験
16	カウンセリング・ロールプレイの準備	カウンセリング・ロールプレイの準備
17	カウンセリング・ロールプレイ①	ロールプレイと振り返り
18	カウンセリング・ロールプレイ②	ロールプレイと振り返り
19	カウンセリング・ロールプレイ③	ロールプレイと振り返り
20	カウンセリング・ロールプレイ④	ロールプレイと振り返り
21	発達障害	発達障害児への対応と支援
22	障害のある子どもを持つ 保護者への支援	障害のある子どもを持つ親への支援の在り方と地域資源について
23	養育困難	養育困難をかかえる保護者への支援
24	虐待	虐待が疑われる保護者への支援
25	精神疾患の疑いのある保護者	様々な精神疾患
26	構成的グループエンカウンター	構成的グループエンカウンターについて。
27	親の会とは	親の会へのサポート、ピアサポートの推進、園内の教育相談の体制整備
28	自分と向き合う	保育者として自分と向き合う、保育者自身のストレスケアの方法
29	まとめ①	レポート/試験問題対策
30	まとめ②	レポート/試験

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	子ども家庭支援論		
必修選択	選択	(学則表記)	子ども家庭支援論		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	スポーツ保育科	2	30
使用教材	近大配本テキスト： 松原康雄 他、編著『子ども家庭支援論』			出版社	中央法規

科目の基礎情報②

授業のねらい	進む核家族化や地域の希薄化により、子育て支援が得にくい社会状況化で、子育てへの不安や負担が増加している。そんな子育て家族の支援を充実させる観点から、子育て支援に必要な知識の基礎理解について学ぶ。		
到達目標	子ども、その家庭の理解を深め、子育て家庭への支援に関する保育者としての基本姿勢や支援内容、それを実践するための方法、技術について理解をする。また、家庭支援のみならず、社会的養護や保護者支援、地域支援に応用できるための基本的な理論と実践方法を学び、就職先で保護者の支援に対応できる力を身につける。		
評価基準	テスト/レポート：60％　授業態度20％　提出物20％		
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者		
関連資格	保育士・幼稚園教諭二種免許状		
関連科目	教育相談、社会福祉、児童福祉		
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。		
担当教員	橋本　理絵	実務経験	○
実務内容	介護職員として従事1年、生活相談員として従事5年、ソーシャルワーカーとして従事8年		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	ガイダンス 子ども家庭支援を学ぶ意義	ガイダンス。本講義の内容について説明を受ける。
2	少子化対策と子育て支援	少子化の状況、要因とその対応／地域格差とその解消について学ぶ。
3	児童福祉、保育園、幼稚園での家庭支援の目的	児童福祉、保育所保育指針、幼稚園教育要領に示めされる家庭支援の目的と機能について学ぶ。
4	子ども家庭支援の機能と原則	子ども、保護者の理解、それによる保育士の専門性について学ぶ。
5	子育て支援施策	子育て支援、次世代育成支援の背景について学ぶ。
6	子ども、子育て関連3法の成立過程と新制度の概要、要点	家庭支援における保育者の役割（保育所保育指針・幼稚園教育要領等）について学ぶ。

7	子育て家庭の福祉のための社会資源	社会資源とはなにか、子育て家庭を支える社会資源と担い手について学ぶ。
8	事例を通した社会資源の活用と連携	社会資源の活用の現状や課題、今後の展望について学ぶ。
9	保育の専門性を活かした 子ども家庭支援とその意義	保育士の専門性について学ぶ。
10	保育所保育指針による 子育て支援について	子ども家庭支援で特に留意すべき点は何かを学ぶ。
11	子どもの育ちの 喜びの共有について	子育ての喜びを共有することが保護者にとって、どのような意味があるのかを学ぶ。
12	子どもの育ちの 喜びを共有するためのツール	実際に保護者に向けて、子どもの様子を伝えるためのツールを考える。
13	地域子育て支援について	地域の子育て家庭を取り巻く環境について学ぶ。
14	保育所を利用している保護者支援	保育所や幼稚園に通わせている親の支援、待機児童について学ぶ。
15	ここまでのまとめ	レポート/試験
16	保育士に求められる基本的態度	バイステック7原則（信頼関係の築き方）を学ぶ。
17	バイステックの原則の実践例	具体的な事例より、バイステック原則を使って、対応を考える。
18	家庭の状況に応じた支援	養育上の課題を抱えた家族について学ぶ。
19	課題を抱える家庭に対しての 保育士の姿勢	継続支援や、理解をするうえでの理論について学ぶ。
20	地域資源の活用と 自治体・関係機関連携について	家庭のニーズの多様化に対応できるよう、連携先の理解や、連携の仕方を学ぶ。
21	子ども家庭支援の内容と対象	子ども家庭支援の具体的な対象や、支援の内容やアプローチ方法、支援形態について学ぶ。
22	子ども家庭支援のアプローチ	相談援助技術を活用した支援について学ぶ。
23	保育所等を利用する子どもの 家庭への支援	改正児童福祉法と子ども家庭支援について学ぶ。
24	家庭が抱える生活課題と 保育所等の役割	多様化する生活課題について対応できるよう理論を学ぶ。
25	地域子育て家庭への支援	地方自治体における子育て支援事業を理解する。
26	地域子育て支援の支援者としての 姿勢について	具体的な事例から行政や関係機関との関わりを学ぶ。
27	要保護児童および その家庭に対する支援	要保護児童家庭の背景について学ぶ。
28	要保護児童と その家庭に対する支援枠組み	児童養護における施策と親子関係再構築支援について学ぶ。
29	子育て支援に関する課題と展望	子育て支援における顕在的ニーズと潜在的ニーズの支援について学ぶ。 近大試験、レポート対策。
30	まとめ	レポート/試験

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	保育の心理学		
必修選択	選択	(学則表記)	保育の心理学		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	スポーツ保育科	2	30
使用教材	近大テキスト『保育の心理学』			出版社	近畿大学九州短期大学通信教育部

科目の基礎情報②

授業のねらい	保育者として子供を理解するためには、「生涯発達」の視点が重要です。人間の精神発達の原理や道筋を理解して、保育者として乳幼児のその後の発達に見通しを持った発達の支援が実践できるようになることを目標とします。				
到達目標	子どもの発達について「生涯発達」の視点から理解できる。発達理論の学説を理解し、保育現場で出会う子どもたちの育ちを見通しを持ちながら理解できる。				
評価基準	テスト/レポート60% 授業態度20% 提出物20%				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格	保育士・幼稚園教諭二種免許状				
関連科目	教育相談、教育心理学				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	宮崎美記			実務経験	
実務内容					

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	ガイダンス	本講義について。発達心理学とは何か。
2	発達研究のテーマ①	連続・非連続、生物学的影響・環境的影響、など。
3	発達研究のテーマ②	初期経験の重要性について。能動と受動。発達と文化など。
4	発達の理論①	発達理論についての視点。初期の発達理論。
5	発達の理論②	現代の発達理論
6	言語の発達①	言語とは。

7	言語の発達②	言語獲得の仮説、言顔発達の道筋。
8	知的発達①	ピアジェの知的発達の理論
9	知的発達②	発達の階層的構造化、記号と表象
10	環境と発達①	スキールズとダイの研究
11	環境と発達②	初期経験の影響。知能と環境。
12	感情の発達①	知・情・意の働き、内発的動機付け、感情の種類
13	感情の発達②	情動の発達、情動の種類。
14	社会性の発達①	社会化への道
15	社会性の発達②	社会的交流と遊び
16	道徳性の発達①	道徳性についての考え方
17	道徳性の発達②	道徳性の発達
18	青年期の発達①	青年期とは
19	青年期の発達②	身体の発達、青年期の心理的な特徴など。
20	成人期の生活①	就職、結婚、余暇について。
21	成人期の生活②	女性の時代、中高年の悩み、
22	老齢期の生活①	高齢者の生き方、意欲、生きがいについて。
23	老齢期の生活②	老人の病い
24	現代社会と発達①	現代社会と能力
25	現代社会と発達②	コンピテンスの発達と教育。
26	発達心理学を学んで	全講義の振り返りと感想。
27	まとめ①	近大のレポート課題/試験問題への対策
28	まとめ②	近大のレポート課題/試験問題への対策
29	まとめ③	試験/レポート
30	まとめ④	試験/レポート

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	実習	科目名	教育実習（1回目）		
必修選択	選択	（学則表記）	教育実習（1回目）		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	スポーツ保育科	3	96
使用教材	教育実習事前指導			出版社	近大テキスト

科目の基礎情報②

授業のねらい	教育実習は、本校授業・近大通信教育を通じて修得してきた知識や技能を、体験を通して実際の教育現場で実践することにより、幼児教育に対する理解を深める。				
到達目標	現場における観察・実習を行うとともに、学校教育活動全般にわたって教員の仕事を直接・間接に経験する。教育実習校の教育目標・学習到達目標達成を目指すとともに自ら立てた目標の達成に向けて精進する。				
評価基準	評価基準は学外実習規定に準ずる（教務ハンドブック参照）				
認定条件	出席が10日と80時間の両条件を満たす事 成績評価が2以上の者				
関連資格	幼稚園教諭二種免許状				
関連科目	近大規定の科目単位を修得しておくことが必須条件となる（教務ハンドブック参照）				
備考	<実習要件>Ⅰ履修科目についてⅡ各実習費を納入していることⅢ妊産婦等実習内容が制限されている場合、実習は認められない。①スクーリング科目・・・教育実習事前事後指導、幼児と音楽表現、人間関係(指導法)、健康(指導法)、環境(指導法)、言葉(指導法)、造形表現(指導法)、音楽表現(指導法)、劇あそび(指導法)、教育心理学②授業・科目終末試験科目・・・幼児の心理学、教育原理、教育課程総論、教育方法論、教職概論原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	廣政 久仁子			実務経験	○
実務内容	私立幼稚園4年、公立保育園4年、現在は私立保育園にて4年勤務				

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	実習	科目名	保育実習Ⅰ（保育所）		
必修選択	選択	（学則表記）	保育実習Ⅰ（保育所）		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	スポーツ保育科	3	96
使用教材	新訂 知りたいときにすぐわかる 幼稚園・保育所・児童福祉施設等 実習ガイド		出版社	同文書院	

科目の基礎情報②

授業のねらい	保育実習は、学校での学びを通じて得た知識、技能、心構えをを基礎とし、これらを総合的に実践する応用能力を養うため、児童に対する理解を通じて保育の理論と実践の関係について習熟させることを目的とする。		
到達目標	保育現場での保育を経験することにより、これまで学習してきた理論や技術が、保育の実践と具体的にどのように繋がるか理解することができる 実践を通じて、保育の技術、能力を向上させる 自分なりの保育観や子ども観を深め確立させる		
評価基準	評価基準は学外実習規定に準ずる（教務ハンドブック参照）		
認定条件	出席が10日と80時間の両条件を満たす事 成績評価が2以上の者		
関連資格	保育士資格		
関連科目	近大規定の科目単位を修得しておくことが必須条件となる（教務ハンドブック参照）		
備考	<実習要件>Ⅰ履修科目についてⅡ各実習費を納入していることⅢ妊産婦等実習内容が制限されている場合、実習は認められない。①スクーリング科目・・・保育実習事前事後指導Ⅰ（保育所）または（施設）、幼児と音楽表現、人間関係(指導法)、健康(指導法)、環境(指導法)、言葉(指導法)、造形表現(指導法)、音楽表現(指導法)、教育心理学②授業・科目終末試験科目・・・幼児の心理学、教育原理、子ども家庭福祉、保育原理、社会的養護Ⅰ原則、この科目は対面授業形式にて実施する。		
担当教員	廣政 久仁子	実務経験	○
実務内容	私立幼稚園4年、公立保育園4年、現在は私立保育園にて4年勤務		

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	総合演習Ⅲ		
必修選択	選択	(学則表記)	総合演習Ⅲ		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	スポーツ保育科	2	30
使用教材	実習日誌の書き方 保育指導案大百科事典		出版社	一藝社	

科目の基礎情報②

授業のねらい	保育者になる上で根幹となる幼稚園指導要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の目指す保育を理解する。実習において、子どもの発達や環境への理解を深め、責任実習につなげる。		
到達目標	実習における、実習日誌や指導計画の重要性と、それぞれの目的と意義が理解できる 子どもの発達や環境への理解を深め、自信をもって日誌や指導案を書けるようになる		
評価基準	テスト/レポート：60% 授業態度：20% 提出物：20%		
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者		
関連資格	保育士 幼稚園教諭二種免許状		
関連科目	総合演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅳ・Ⅴ		
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。		
担当教員	廣政 久仁子	実務経験	○
実務内容	私立幼稚園4年、公立保育園4年、現在は私立保育園にて4年勤務		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション 実習の意義・目的	授業の目的、到達目標を知る 実習の意義・目的について理解する
2	実習の事前準備と実習園の理解	実習生としての心構え 実習園の事前理解する
3	実習日誌とは	実習中の実習日誌の位置づけについて知る
4	日誌の書き方①	幼稚園の1日を理解し日誌の書き方を知る 日誌の実習の目標を立てる
5	日誌の書き方②	まとめと反省の書き方
6	危機管理①	実習における守秘義務やプライバシー保護について知る その他、実習における注意事項を考える

7	教育実習の振り返り	教育実習振り返りシートを作成し、クラス内で発表する
8	指導計画とは	指導計画とは何かを知る
9	指導計画の実際①	指導計画の作成をする
10	指導計画の実際②	指導計画の作成をする
11	実習日誌に必要な保育用語の理解	保育用語を適切に使い実習日誌を書く
12	危機管理②	アレルギーとは何かを理解し対応を学ぶ
13	エピソードの理解	観察を通して子どもを理解する
14	保育所の一日の生活を知る	保育実習に向けて保育所の1日を理解する
15	乳児の発達と理解	保育実習に向けて乳児の発達について確認する 異年齢児保育について知る

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	総合演習Ⅳ		
必修選択	選択	(学則表記)	総合演習Ⅳ		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	スポーツ保育科	2	30
使用教材	実習日誌の書き方 保育指導案大百科事典		出版社	一藝社	

科目の基礎情報②

授業のねらい	保育所の特徴や一日の流れを理解し、保育者としての資質を育む 保育発表会を通して、園運営での行事に対する計画を知り、行事の成り立ちを学ぶ		
到達目標	子どもの自発的な活動である遊びを中心として、総合的に育まれている様子を理解する。 実習に向けた日誌の作成や指導計画の立案ができる。 保育発表会に主体的に取り組むことで、計画を立てて協力しながら行事の作り上げることができる。		
評価基準	テスト/レポート：60% 授業態度：20% 提出物：20%		
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者		
関連資格	保育士 幼稚園教諭二種免許状		
関連科目	総合演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅴ		
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。		
担当教員	廣政 久仁子	実務経験	○
実務内容	私立幼稚園4年、公立保育園4年、現在は私立保育園にて4年勤務		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション 実習園の事前理解	実習園の理解をする
2	保育所の一日の流れ 責任、部分実習の指導計画①	保育実習における一日の流れや指導計画に留意点を学ぶ 責任、部分実習の指導案を作成する
3		
4	実習振り返り	実習振り返りシートの作成をする
5	責任、部分実習の指導計画②	実際に行った責任、部分実習の指導案を改めて見直す 指導案を基に模擬保育を行う
6		
7		

8	保育発表会について①	実施目標、実施に向けての活動（役割分担、実施計画等）
9	保育発表会について②	保育発表会の実施目標、実施に向けての活動
10	保育発表会について③	
11	保育発表会について④	
12	保育発表会について⑤	
13	保育発表会について⑤	
14	保育発表会について⑥	総合演習のまとめ
15	後期まとめ	